

高校野球・周知徹底事項

日本高等学校野球連盟
審判規則委員会

高校野球は甲子園の全国大会も都道府県大会でも、すべて同じ考え方で運営されていなければなりません。また高等学校野球連盟の役員と審判委員は、いつも同じ考え方、同じ立場で高校野球を運営、指導すべきです。以下について、周知徹底をお願いします。

1. 試合をテンポ良く進めるために

- ① 攻守交代時、先頭打者および次打者とベースコーチはミーティングに参加せず、速やかに所定の位置につく。
- ② サインは複雑なものはなくし、速やかに出すよう監督に協力を求める。
- ③ 遅延行為と見なされる投手のけん制はしない。(例えば離塁していない走者へのけん制など)
- ④ 捕手の動作は機敏にする。(速やかなサイン、用具の着脱、バックアップや打ち合わせの後、速やかに守備位置へ戻るなど)
- ⑤ 投球を逸した捕手は敏速にその球を自分で処理する。
- ⑥ 捕手のブロックサインは禁止。また内野手から投手へのサインは簡単にする。
- ⑦ 内野手が投手へ返球する場合、塁線から投手よりに近づかず、送球する。

2. マナーについて

- ① 投手のウォームアップ時に、次打者などが打者席付近に近づき、タイミングを測る行為を禁止。
- ② 次打者は投球時には低い姿勢でプレイに注目する。
(低い姿勢とは、座る行為も当てはまるが、投球を注視して身体を屈め、打球が自分のところに飛んできて、すぐに避けることのできる姿勢を意味する。)
- ③ 走者やベースコーチなどが、捕手のサインを見て打者にコースや球種を伝える行為を禁止する。もしこのような疑いがあるとき、審判員はタイムをかけ、当該選手と攻撃側ベンチに注意を与え、すぐに止めさせる。
- ④ ベースコーチが打者走者(走者)の触塁に合わせて『セーフ』のジェスチャーとコールをする行為の禁止。
- ⑤ 本塁打を打った打者の出迎えはしない。
- ⑥ 喜びを誇示する派手な「ガッツポーズ」などは、相手チームへの不敬・侮辱につながりかねないので慎む。

3. 規則上特に注意すべき事項について

- ① 投手に基本的なルールを徹底する。(投手板への着き方、自由な足の位置、自由な足の踏み出し、軸足の移動とはずし方、投球動作・ストレッチの中断など)
- ② 捕手(野手)はボールを持たないで、走路に位置してはいけない。
- ③ 走者の野手に向かってのスライディング
- ④ 打者走者のダイヤモンド内へ膨らんでの走塁や、送球を妨害する意図をもって野手に向かう走塁
- ⑤ 盗塁を助けるため捕手の送球直前のスイングや、わざと打者席から前へ出る行為
- ⑥ 死球を得るために投球のコースから逃げない打者(投球を避ける動作のないもの)

4. その他

- ① 金属製バットおよびヘルメット(打者用、捕手用とも)の保守、点検の励行。
- ② 試合中に死球などで大きな衝撃を受けたヘルメットは使用不可。
- ③ 危険防止のため、試合中、練習中を問わず、捕手が座って投球を受ける場合は必ずマスク(スロートガード)、ヘルメットなどの捕手用具を着用。
- ④ 日程、時間に余裕がある場合でもスピーディーな試合進行の励行。
- ⑤ 投手はロージンバッグを指先だけで使用し、丁寧に取り扱う。

5. タイムの回数制限(高校野球特別規則)

平成12年度シーズンから下記の規則を採用する。

1 守備側の伝令に関する制限

- ① 監督の指示を伝える伝令は、マウンドに行ける回数を1試合に3回までとする。しかし、投手交代の際に野手がマウンドへ集まることは、タイムの回数としてカウントしない。ただし、その後再び伝令がマウンドに行った場合は、1回にカウントする。
- ② 補回戦に入った場合は、それ以前の回数に関係なく、毎イニングに1回守備側、攻撃側ともに伝令を使うことが許される。
- ③ 伝令は審判員がタイムを宣告してから30秒以内とする。

2 攻撃側の伝令

- ① 打者および走者に対する伝令は、1試合に3回を限度として許される。
- ② 補回戦に入った場合は、それ以前の回数に関係なく、毎イニングに1回守備側、攻撃側とも伝令を使うことが許される。

6. 投手の守備位置の交代

規則3.03【原注】前段のうち「同一イニングでは、投手が一度ある守備位置につ

いたら、再び投手となる以外他の守備位置に移ることはできない」は適用しない。

投手 → 野手 → 野手 ……………高校野球特別規則でOK

投手 → 野手 → 野手 → 投手 ……………高校野球特別規則でOK

ただし、投手は、同一イニングで二度目の投手に戻れば、それ以降は他の守備位置につくことはできない。

7. ボールカウントのコール

平成9年の地方大会より、先にボールをコールし、続いてストライクをコールする。

8. トレーニングバットの使用について

トレーニングバット（木製、金属製共）のウェイトリングサークル内での使用を認める。ただし、投手が投手板についたらスイングを止めて低い姿勢でプレイに注目すること。トレーニングバットの制限色彩はない。鉄棒やバットにはめるリングはベンチに持ち込めない。

9. 大会試合毎のユニホーム変更について

大会で使用するユニホームは、一大会一種類とする。

（例えば校名表記が漢字とローマ字の2種類保有しているなどの場合）

10. 試合到着遅れの選手の取り扱い

何かの事情で当該選手だけが試合会場に遅れてきた場合、あくまでプレイがかかるまでに会場に到着しなければ出場資格がないとし、その取り扱いを次の通りとする。

△ 出場選手は大会規則で定められた時刻までに球場に到着しなければならない。

何かの理由で遅れてきた場合、大会本部が止むを得ないと認めた理由がない限り、試合開始の挨拶で両チームが整列するまでに到着しなければ試合に出場をすることができない。ただし、試合出場が認められない選手であってもベンチに入ることは許される。

11. 試合開始前の負傷による選手変更の特例

メンバー交換の後、試合開始前の両チーム整列までの間に、メンバー表に記載された選手が、突発事故の発生により止むを得ず先発出場が不能となった場合、控え選手を交代出場させることができる。その場合出場不能となった交代選手は試合に出場しなかったことになり、回復すれば以後の試合に出場することができる。